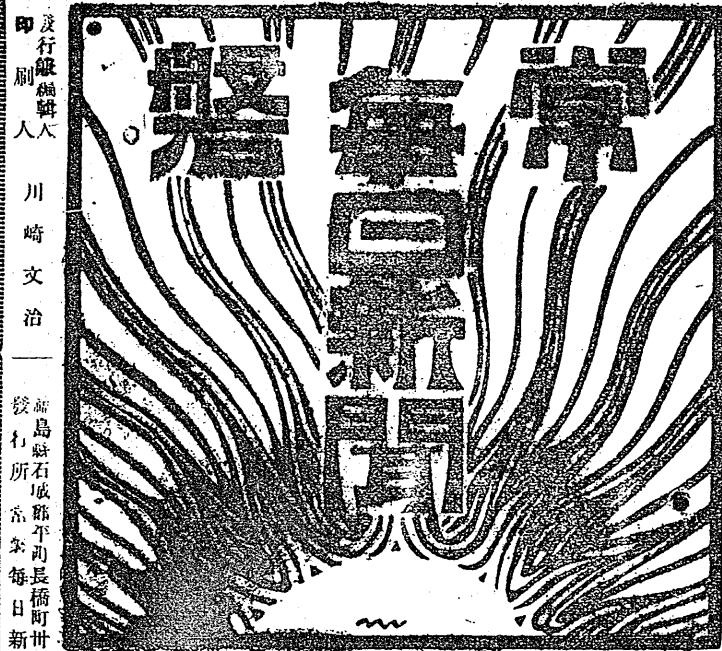


電話開設御披露

番號	町名	氏名
六三二	南町	中外商業新報 福島新聞平支局
六四〇	田町	關内油槽所
六四二	三日	山本屋旅館
六四五	二丁目裏	福元石橋彦七
六四六	鍛冶町	鈴木多利吉
六五一	鍛冶町	瀧澤俊平
六五二	紺屋町	玉川屋 塙秀次郎
六五三	田町	野木文彌
六五五	一目	白土貞三
六五六	田町	玉屋洋品店
六五八	堤内	馬豚肉問屋 大塚武雄

番號	町名	氏名
六六〇	五日	酒井亥之次郎
六六一	田町	宇佐美友二郎
六六二	土橋	魚屋 平田茂
六六四	南町	濱三郡木炭業組合
六六五	堤内	馬豚肉問屋 佐久間丈吉
六六六	田町	西洋料理 金春亭
六七〇	月見町	濱まつや 古川兼松
七〇三	新田町	公周旋 滑川敏之補
七〇四	研町	大鶴屋 金成泉一郎
七〇七	鎌田町	根本精米所 根本忠吉
六三〇	長橋町	常磐毎日新聞社

今般電話架設開通仕候間是非御利用の上倍舊の御愛顧御引立の程奉懇願候



發行編輯人 川崎文治
印刷所 福島市石城郡平町長橋町廿五番地

定部一五五
郵稅五厘
廣告料
五字一三
行一三
日一三
日一三
印刷所 本報印刷部

刊夕日七十月八

新聞に貞操なし

(一六) 山本正巳

低級とは平易を指すではない又智的低級を意味しない、吾々の志向本能を刺戟するその仕方にて低級なのである。

今日の新聞は死版よりは報道の分量、形式、説明に於て實用的総合的、組織的となつたけれどもそれだけに、いやに職業盛なケレン修飾が鼻につく様になつた。そしてそれは記者の勢力が『いかに率直に、報道すべきか』によりは『いかにお

物質的な米化がやつとこの日本に普及された今日と

『に費されるからだ』

もろく美しく事件を讀者の眼前に展開せしむべきか

物質的な米化がやつとこの日本に普及された今日と

としては報道の誇張とか誤解曲解は齒牙にかくるに足らぬと言ふか、然らば經營者よ、編輯者よ、記者よ、君方は何故に君方の商道のためであらう所の混雜したる無真摯な宛も賣淫婦の様な八方美人的な御都合主義な編輯態度(新報社が同業的團結によつて一種の政治的輿論を捏造し或は世相評欄に於て散々に揶揄し罵倒された政治家でも一旦内閣

「之は新聞社として國家的奉仕」等と開き直るな

之は新聞社として國家的奉仕」等と開き直るな

之も不徹底な商道の致す所と素直に謝罪すべきである

に列するやいやが應でも寫真機携帯で太鼓持然とその自宅を訪問し就任御感想とやらを拜聴せしめらる、等私共はごうしても新聞社の仕事と云ふものを全的にみるとき一種の侮蔑を感じない譯にゆかぬ、嘔吐を催させるることを白状する)を捨て惜みながら××救濟寄附金募集とか××社會事業とか××同情週間とか誠に「體裁のいゝいゝ子」振りを發揮したがるのか。

町民が大挙して

町長の平愈を祈願

石城郡江名町町長中山元治氏は十四日午前八時頃自宅にて突然人事不省に陥り倒した為め町民等を同日午後十一時頃迄に村社諏訪神社頭に大衆集病氣回復の祈願をこめた

風さい加はつて

底氣味悪い空模様

十四日から間けつ的に降る豪雨は今日になつても未だ止まずどうなる事かと人に不安を抱かして居る、昨日午前七時の

増水量は 夏井川十二尺、新川六尺五寸、好間川七尺等にて久保町では好間川氾濫の影響を受けて浸水家屋五戸北目町にも十二戸ありまた柳町では溝渠から溢水して浸水七戸に及び新川添えの材木町及び新川町裏に三戸の浸水を見た、本日は各河が減水した

横様だが 午前八時頃以降つた程度の豪雨が間断なく二時間も続けば出水あるものと覺悟し平町役場では救護船の準備を整へ消防組と萬事の打ち合せをしてイザと云ふ場合には直ちに救護に出動出来るだけの用意を怠らず焚き出し等も

差支へぬ 様に努めて居るが風さい加つた空模様は低氣味悪く濁つて居る

在原川の堤防が欠潰 消防組警戒 石城郡赤井村大字赤井字御代田内在原川堤防は十五日

一日一言 警備庶務課長 濱崎善三郎氏 一人の間でも人間らしい生涯を終らしむる事は

思ふ 親鸞は流石に偉かつたと

日夕刻十数回に亘り欠潰したが人畜には死傷なかつた

なほ床下浸水家屋八戸浸水田畑約九町歩押田四町歩

あり同村消防組は總動員で警戒中である

夏井川は十二尺その他鮫川などの各河川に於ても夫々若干の増水を見たがさしたる被害はなかつた

石城郡大浦村大字仁井田高橋地内は十四日來の豪雨により國道に浸水し車馬の通行は全く杜絶された

暴風雨襲來の警報 けふ小名濱測候所より

今回の豪雨に就いて小名濱測候所の觀測に依れば「目下八丈島南西海上に七五〇ミリの低氣壓が起つて居るが是れは大したこともなく琉球近くのラシヤ島附近に七四八ミリの低氣壓が起つて居るのが最大の原因で未だ此氣壓が去らない為め降雨が止まず今日邊りの天候に依ると暴風雨襲來の模様が見えるから洪水を警戒せよ

見分け方も二三度實行なされば直に分りますから是非おすゝめいたしますまづ第一につやのよいのは新しく二、つやがよくてぬら〜のあるものは良い

三、眼が青黒く光つてゐるものは新しい

四、眼玉がくぼんで落ちこんでゐるものは古く、張り

きつてゐるものは新しい

五、エラの赤いのもよく

六、エラから二寸位下つて押し見て堅いものもよい

右に掲げた事をよくお覺えになつてお買ひになれば新らしのを頂かれます、アワビは肉の真中を押して巻つて來るものは生きてゐるものでございます

消防組の寄贈 石城郡平窪村にては同村巡查駐在處の備品としてライフル一脚、椅子二脚、火鉢台一組を寄附した

不平受付 不平に苦情 昨今の平驛は避暑客の難踏で足の踏み込み様もなく致方なく自動車

然るに一部政黨者流或ひは野心家の爲めに反噬は是れ事となすが如き事あらんか町政は麻の如く亂れて眞に收拾の途なかるべし

江名濱の美談は是れ一服の清涼劑、以つて他山の石と爲し熟慮反省を要す

各河川増水

被害は尠し

夏井川は十二尺その他鮫川などの各河川に於ても夫々若干の増水を見たがさしたる被害はなかつた

國道に浸水

車馬は不通

石城郡大浦村大字仁井田高橋地内は十四日來の豪雨により國道に浸水し車馬の通行は全く杜絶された

暴風雨襲來の警報

けふ小名濱測候所より

今回の豪雨に就いて小名濱測候所の觀測に依れば「目下八丈島南西海上に七五〇ミリの低氣壓が起つて居るが是れは大したこともなく琉球近くのラシヤ島附近に七四八ミリの低氣壓が起つて居るのが最大の原因で未だ此氣壓が去らない為め降雨が止まず今日邊りの天候に依ると暴風雨襲來の模様が見えるから洪水を警戒せよ

見分け方も二三度實行なされば直に分りますから是非おすゝめいたしますまづ第一につやのよいのは新しく二、つやがよくてぬら〜のあるものは良い

三、眼が青黒く光つてゐるものは新しい

四、眼玉がくぼんで落ちこんでゐるものは古く、張り

きつてゐるものは新しい

五、エラの赤いのもよく

六、エラから二寸位下つて押し見て堅いものもよい

右に掲げた事をよくお覺えになつてお買ひになれば新らしのを頂かれます、アワビは肉の真中を押して巻つて來るものは生きてゐるものでございます

消防組の寄贈 石城郡平窪村にては同村巡查駐在處の備品としてライフル一脚、椅子二脚、火鉢台一組を寄附した

不平受付 不平に苦情 昨今の平驛は避暑客の難踏で足の踏み込み様もなく致方なく自動車

然るに一部政黨者流或ひは野心家の爲めに反噬は是れ事となすが如き事あらんか町政は麻の如く亂れて眞に收拾の途なかるべし

江名濱の美談は是れ一服の清涼劑、以つて他山の石と爲し熟慮反省を要す

愛谷江組合會 石城郡愛谷江筋水利組合にては十五日夏井村小學校に組合員集合、組合員の表裏等を行つた

船止めにて 石城郡江名濱にては連日の豪雨で漁船はみな船曳場迄引き揚げを爲し漁夫連は今迄の勞を慰はす意味で各所に相集り大酒宴を開いて居ると

慰勞の酒宴 船止めにて

漁夫連は 慰勞の酒宴

船止めにて 石城郡江名濱にては連日の豪雨で漁船はみな船曳場迄引き揚げを爲し漁夫連は今迄の勞を慰はす意味で各所に相集り大酒宴を開いて居ると

愛谷江組合會 石城郡愛谷江筋水利組合にては十五日夏井村小學校に組合員集合、組合員の表裏等を行つた

船止めにて 石城郡江名濱にては連日の豪雨で漁船はみな船曳場迄引き揚げを爲し漁夫連は今迄の勞を慰はす意味で各所に相集り大酒宴を開いて居ると

慰勞の酒宴 船止めにて

漁夫連は 慰勞の酒宴



魚の見分け方 家庭欄

今この季節物としては、セイゴ、スマキ、アジ、カツヲメチマゴロ、タイ類ですが新らしいもの、古いもの、

是れより先き掠木斥候はオートバイにて道路川船の偵察に先發し午前七時半青年

團旗を 少年隊の先登に軍人分會旗を第二少隊の先登に附し三名が吹奏する

ラツパの音勇ましく商業校を出發、度々の豪雨に勇氣百倍し隊伍整然神谷村鹽野の虚空藏尊に達して長島

指揮官から行軍に關する講話を傾聴し之より戦備行軍に移つて少年隊を前衛となし他を本隊として

行軍間 の傳令斥候偵察の勤務を演習したが根本、諸橋の少年等は成績抜群であつた斯くして午前十

時半警備隊子に到着指揮官の講評あり山崎會長の挨拶滑川警中校長の精神講話あつて晝食休憩後百米突、三百米突、五百米突、千米突の徒歩競争を始め角力其他

數種の運動 競技を 試み屢々の強雨に惱まされたが歡聲湧くが如き裡に午後三時終了再び隊伍を整へ仁井田浦にて夏井川の濁流を渡舟四倉本通に集合、午後五時四倉驛に到着點檢を爲したる處

一名の落伍者もなく少青年共に又と得難き良經驗を嘗めて精神鍛練に資したるを喜び午後五時四十分

平驛に 到着意氣天を衝くの概を示し驛前に整列會長の訓示羽岡軍醫の行軍後に於ける衛生上の注意あり陛下の萬歳を三唱ラツパの音勇ましく手に賞品を下げて一同解散した

(參加者の一名記) 十字語の回答 本紙五百號記念懸賞十字語の回答及び正解者は本日の紙面に發表する筈でありました記事幅帳の爲め明紙へ譲る事としましたから御承知を乞ふ

平町人事 出生 南町七十一橋本喜七六男健行 白銀町三六佐藤雅氏長節子

屢々の豪雨に勇氣

百倍した昨日の行軍

一名の落伍者もなく 意氣衝天の概を示す

平町在郷軍人分會並に青年團主催の青少年大運動會は昨日天候不良の爲め集合を躊躇したが午前六時合圖の

煙火にて平商校庭に集る青少年約二百名、心身鍛練には此上ない機會として直ちに行軍編制を爲し

行軍指揮官としては警中軍事教官の長島大尉、續いて第一少隊少年隊、隊長馬目

一某傳令が持参した本社への通信 青年副團長、第二少隊(青年軍人聯合)隊長木田特務曹長、第三少隊(同上)隊長緑川青年副團長

衛生隊 長羽岡軍醫總務部 參謀格)には係長として會長山崎清三氏を始め四家少佐、花澤少尉、藤田少尉の面々にて各少隊には五名の分隊長を附し名簿を作つて周到の注意を爲す